

# 編 修 趣 意 書

## (教育基本法との対照表)

※受理番号	学校	教科	種 目	学年
107-119	高等学校	商業科	原価計算	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		

### 1. 編修の基本方針

- 費目別の原価の集計・計算方法や勘定間の振替関係、各原価計算の手続などといった原価計算に関する「知識」をただ覚えるだけではなく、何のために原価計算をおこなう必要があるのか、また原価計算の知識を身につけることで、どのように社会で役立つのかについて、丁寧な記述を心掛けた。そうすることで、「社会の形成者」（第1条：教育の目的）としての自覚を学習者に持ってもらい、将来、実際に企業で働くさいに、本書で学習した内容が（どんな形であれ）役に立つことを期待している。
- 編ごとに、その編で学習した内容について、より原理的かつ実践的な理解を促すために、深く考えさせる問題をそれぞれ設けた。これらは、複数の学習者が話し合って解答を導き出すなど、主体的な学習の題材として活用されることを想定しており、各問題について熟考したり、自分の力で調べたりした後に、その結果を自分の言葉で説明することで、思考力や判断力・表現力を育むだけではなく、真理を求める態度を養うこと（第2条第1号：教育の目標）も期待している。

### 2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
口絵①～⑩	<ul style="list-style-type: none"> <li>●イラストは男性と女性がなるべくどちらも登場するように心掛けた（第3号）。</li> <li>●企業の経営活動がグローバル化していることを学習者に意識してもらうため、製造した自動車を輸出しているイラストを設けた（第5号）。</li> <li>●各原価計算の種類（単純個別原価計算・部門別個別原価計算・単純総合原価計算・等級別総合原価計算・組別総合原価計算）について、実際の業種の例をもとにイラストを用いて説明することで、学習者が具体的なイメージを掴み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●口絵①～口絵④</li> <li>●口絵②</li> <li>●口絵③～口絵⑦</li> </ul>

	<p>やすいように配慮した（第1号）。</p>	
<p>第Ⅰ編 原価と原価計算</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●原価計算の目的を明示し、学習者に、何のために原価計算をおこなうのかを理解してもらうようにした（第1号）。</li> <li>●基本概念である原価要素の「消費」のイメージを学習者にもってもらうために、傍註で説明をおこなった（第1号）。</li> <li>●企業は、原価管理をおこない、製造活動のむだを省くことで生産能率を高める一方、製品の品質や安全性を維持しなければならないという点において、社会的な責任があることを示した（第3号）。また、地域社会や自然環境などにも配慮する必要がある旨も著述した（第4号）。</li> <li>●販売費の説明に関連して、生八ツ橋の販売員の写真を選定して掲載し、学習者に日本の伝統的な和菓子に親しみを感じてもらうようにした（第5号）。</li> <li>●学習者の生活に密接な関わりのあるサービス業の例として、理容室や美容室における収益や費用について取り扱い、学習内容をより身近に感じてもらうように配慮した（第2号）。</li> <li>●EDINETを利用して、実際の企業がどのような原価計算の方法を採用しているかについて主体的に調べさせる学習活動を設けた（第1号）。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●4 ページ、11～13 ページ</li> <li>●5 ページ</li> <li>●12 ページ</li> <li>●26 ページ</li> <li>●29～30 ページ</li> <li>●32 ページ</li> </ul>
<p>第Ⅱ編 原価の費目別計算</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●会計系のほか、倉庫係や賃金計算係、原価計算係などがそれぞれの役割を担い、お互いが密接に関わりながら職務を遂行する旨を記述した（第2号）。</li> <li>●「材料消費価格差異勘定の貸方残高が増えたときは、売上総利益がどのように変化するか」を主体的に考えさせるため、キャラクターを用いて発問をおこなった（第1号）。</li> <li>●材料費について、学習者にとって身近な製品の素材と買入部品について主体的に調べさせる学習活動を設けた（第1号）。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●39～41 ページ、63 ページ、76 ページなど</li> <li>●51 ページ</li> <li>●55 ページ</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>●労務費は、労働の対価であることを学習者に強く意識してもらうために、封筒にボーナスが入ったイラストを設けた（第2号）。</li> <li>●賃金と給料の違いについて主体的に調べさせる学習活動を設けた（第1号）。</li> <li>●経費にはどのようなものがあるかについて主体的に調べさせる学習活動を設けた（第1号）。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●57 ページ</li> <li>●71 ページ</li> <li>●80 ページ</li> </ul>
<p>第Ⅲ編 原価の部門別計算 と製品別計算</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●作業くずはすべてそのまま廃棄されるのではなく、売却価値または利用価値をもち、売却によって再利用できる場合があることを取り扱った（第4号）。</li> <li>●製造間接費配賦差異の変動予算による分析および固定予算による分析のメリット・デメリットについて主体的に調べさせる学習活動を設けた（第1号）。</li> <li>●原価部門について、製造部門と補助部門がそれぞれの役割を担い、お互いが密接に関わりながら製品を製造していることが分かる図を設けた（第2号）。</li> <li>●月末仕掛品原価の計算が、完成品原価にも影響を及ぼすことについてキャラクターで呼びかけることで、学習者に月末仕掛品原価の計算の重要性を意識してもらうようにした（第1号）。</li> <li>●月末仕掛品原価の計算における平均法や先入先出法は、月初仕掛品原価と当月製造費用の単価が異なる場合に登場するものであることについて、キャラクターで説明を補足した（第1号）。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●110～111 ページ</li> <li>●113 ページ</li> <li>●115 ページ</li> <li>●139 ページ</li> <li>●141 ページ</li> </ul>
<p>第Ⅳ編 内部会計</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●会計係のほか、倉庫係や販売係、原価計算係などがそれぞれの役割を担い、お互いが密接に関わりながら職務を遂行する旨を記述した（第2号）。</li> <li>●本来的には工場勘定と本社勘定の残高は貸借反対で一致するとしつつ、実際には未達事項などにより一致しない場合がある旨を傍註で補足した（第1号）。また、近年の情報通信技</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●196～197 ページ</li> <li>●201 ページ</li> </ul>

	<p>術の発達により本社・工場間の未達事項が減少している旨を記述することで、より実務に即した内容を学習者に理解してもらうようにした（第1号）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●製造業における財務諸表の特徴について、商品売買業における財務諸表との違いに重点を置いた説明を心掛けることで、商業簿記について「簿記」や「財務会計Ⅰ」などで履修済の学習者にとってスムーズに理解できるように配慮した（第1号）。</li> <li>●本社・工場会計における工場勘定と本社勘定の残高が貸借反対で一致する理由について、また、未達事項には具体的にどのようなものがあるかについて主体的に説明させる学習活動を設けた（第1号）。</li> <li>●製造間接費を実際配賦した場合であれ、予定配賦した場合であれ、製造原価報告書の当期純利益の金額は変わらない理由について主体的に考えさせる問題を設けた（第1号）。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●210 ページ</li> <li>●218 ページ</li> <li>●218 ページ</li> </ul>
第V編 標準原価計算	<ul style="list-style-type: none"> <li>●標準原価計算における、パーシャルプランによる記帳とシングルプランによる記帳の違いについて主体的に調べさせる学習活動を設けた（第1号）。</li> </ul>	●258 ページ
第VI編 直接原価計算	<ul style="list-style-type: none"> <li>●全部原価計算と直接原価計算のそれぞれの特徴とメリット・デメリットについて、具体的な事例を用いて主体的に考えさせる問題を設けた（第1号）。</li> </ul>	●278 ページ
3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色		
<ul style="list-style-type: none"> <li>●本書の巻末折込には、「部門別計算を含む個別原価計算の記帳関係」および「工程別総合原価計算の記帳方法」の全体像を掴んでもらうための勘定連絡図を設けたが、それぞれの勘定や帳票の対応関係を示す矢印の色数が多いため、カラーユニバーサルに配慮した色を選択して、色覚異常の学習者にとっても使いやすいように心掛けた。</li> <li>●本書に掲載している写真は、日本の写真だけでなく、アメリカやイギリス、ドイツなどさまざまな国で撮影されたものを掲載し、学習者にグローバルな視点をもってもらうことを意識した。</li> </ul>		

# 編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

※受理番号	学校	教科	種 目	学年
107-119	高等学校	商業科	原価計算	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		

## 1. 編修上特に意を用いた点や特色

- 本教科書では、今まで商業簿記を学んできた学習者が、初めて本種目を履修されることを想定し、原価計算の全体像を俯瞰的・体系的に捉えて理解してもらうことを目標としている。原価計算の意義や目的、商業簿記との違い、原価計算と工業簿記の関係、各勘定間のコスト・フローなどに関する説明をなるべく平易な言葉で原理的におこなうことにより、真に深い理解を促すことを主眼に置いた。こうすることで、将来、学習者が実際に企業で原価計算をおこなう場合にも「使える」、実践的な知識を学習者に習得してもらうことを期待している。すなわち、今どの段階の計算をしており、必要な情報はどのようなもので（あるいは与えられた情報は何を意味し）、どうすれば欲しい情報を得られるのかについて判断し、得られた情報を有効に活用して問題を解決する能力を身につけてもらうことを期待している。
- 原価計算の知識習得に関して、学習者にとってより使いやすい教科書になるように随所に工夫を凝らした。具体的には、以下のような配慮をおこなった。
  - ①UD フォントを採用し、誰もが学習しやすい教科書になるように配慮した。
  - ②学習者が学習の見通しを的確に把握できるように、各章の冒頭にはその単元の「Point」と「Theme」を明示した。
  - ③表情豊かなネコのキャラクターによる解説を多く盛り込み、学習者がより親しみやすい教科書を目指した。
  - ④グローバル化に対応するため、基本的な会計用語については英語表記を併記し、巻末には教科書に登場する英語表記の一覧表（索引）も掲載した。
  - ⑤例題を豊富に掲載するとともに、原則として章末に練習問題を掲載した。また、思考力・判断力・表現力が培われるように、各編に少なくとも1つは「考えてみよう!」「調べてみよう!」の設問を設けた。学習者同士で対話し、考察をおこなうことにより、各編で学習した事項を実務と関連づけて理解するとともに、課題に対して主体的かつ協働的に取り組めるように配慮した。

- ⑥初めて工業簿記を学ぶ者にとってもスムーズに学習できるように、第Ⅰ編導入部分の「商業簿記との違い」や「原価計算の仕組み」については特に丁寧な記述を心掛けた。
- ⑦卓上フライス盤や卓上ボール盤のイラスト（16 ページ）、コンプレッサーや変速機のイラストなど（83 ページ）、実際の製品に忠実なイラストを数多く設けることで、学習者の想像力を掻き立てるようにした。
- ⑧例えば、黄銅丸棒に関する出庫伝票の近くに黄銅丸棒の写真を載せたり（39 ページ）、製造部門の説明の近くに実際の自動車工場の塗装部の写真を載せたり（115 ページ）するなど、学習者のイメージを助けるような写真を多く掲載した。
- ⑨巻末に原価計算基準を掲載することで、本書で学習した処理などの根拠について調べられるようにした。

## 2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
第Ⅰ編 原価と原価計算 第1章 原価の概念 1 工業簿記と原価計算 2 原価の意義 3 原価要素の分類	(1) 原価と原価計算 ア 原価の概念 ●製造原価と総原価の違い ●原価要素の分類	2～10 ページ	5
第Ⅰ編 原価と原価計算 第2章 原価計算の特色と 仕組み 1 原価計算の目的 2 原価計算の手続 3 会計期間と原価計算期間 4 原価計算の種類 5 製造業における原価計算 6 サービス業における 原価計算	(1) 原価と原価計算 イ 原価計算の特色と仕組み ●サービス業における原価情報の 活用の特徴	11～32 ページ	8
第Ⅱ編 原価の費目別計算 第1章 材料費の計算 1 材料費の分類 2 材料の購入と記帳 3 材料の保管と記帳 4 材料の払出と記帳 5 材料消費高の計算と記帳	(2) 原価の費目別計算 ア 材料費の計算 ●各原価要素の分類 ●各原価要素の計算方法と仕訳	34～55 ページ	8
第Ⅱ編 原価の費目別計算 第2章 労務費の計算 1 労務費の分類 2 賃金支払高の計算と記帳 3 賃金消費高の計算と記帳 4 賃金以外の労務費の計算と 記帳	(2) 原価の費目別計算 イ 労務費の計算 ●各原価要素の分類 ●各原価要素の計算方法と仕訳	56～71 ページ	7
第Ⅱ編 原価の費目別計算 第3章 経費の計算 1 経費の分類 2 経費消費高の計算 3 経費消費高の記帳	(2) 原価の費目別計算 ウ 経費の計算 ●各原価要素の分類 ●各原価要素の計算方法と仕訳	72～80 ページ	4

<p>第Ⅲ編 原価の部門別計算と製品別計算</p> <p>第1章 個別原価計算と製造間接費の計算</p> <p>1 個別原価計算と原価計算表</p> <p>2 原価計算表の記入</p> <p>3 原価計算表と仕掛品勘定</p> <p>4 製造間接費の配賦</p> <p>5 製造間接費の予定配賦</p> <p>6 製造間接費の差異分析</p> <p>7 仕損品の処理</p> <p>8 作業くずの処理</p>	<p>(3) 原価の部門別計算と製品別計算</p> <p>ア 個別原価計算と製造間接費の計算</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●原価計算表の作成</li> <li>●製造間接費の配賦</li> <li>●製造間接費差異の原因別分析</li> </ul>	<p>82～113 ページ</p>	<p>12</p>
<p>第Ⅲ編 原価の部門別計算と製品別計算</p> <p>第2章 部門別個別原価計算</p> <p>1 部門別計算の意義</p> <p>2 原価部門の設定</p> <p>3 部門別計算の手続</p>	<p>(3) 原価の部門別計算と製品別計算</p> <p>イ 部門別個別原価計算</p>	<p>114～133 ページ</p>	<p>8</p>
<p>第Ⅲ編 原価の部門別計算と製品別計算</p> <p>第3章 総合原価計算</p> <p>1 総合原価計算の意義</p> <p>2 総合原価計算の種類</p> <p>3 単純総合原価計算</p> <p>4 等級別総合原価計算</p> <p>5 組別総合原価計算</p> <p>6 工程別総合原価計算</p> <p>7 総合原価計算における減損および仕損</p> <p>8 副産物の評価</p>	<p>(3) 原価の部門別計算と製品別計算</p> <p>ウ 総合原価計算</p>	<p>134～194 ページ</p>	<p>14</p>
<p>第Ⅳ編 内部会計</p> <p>第1章 製品の完成と販売</p> <p>1 製品の完成</p> <p>2 製品の販売</p> <p>3 販売費と一般管理費</p>	<p>(4) 内部会計</p> <p>ア 製品の完成と販売</p>	<p>196～199 ページ</p>	<p>2</p>
<p>第Ⅳ編 内部会計</p> <p>第2章 本社・工場会計</p> <p>1 工場会計の独立</p> <p>2 取引の記帳方法</p>	<p>(4) 内部会計</p> <p>イ 工場会計の独立</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●工場会計が本社会計から独立している場合の本社と工場間の取引の記帳法</li> </ul>	<p>200～203 ページ</p>	<p>3</p>
<p>第Ⅳ編 内部会計</p> <p>第3章 製造業の決算</p> <p>1 決算の手続</p> <p>2 月次決算と年次決算</p> <p>3 会計期末における原価差異の処理</p> <p>4 財務諸表の作成</p>	<p>(4) 内部会計</p> <p>ウ 製造業の決算</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●製造業における決算の特徴と手続</li> <li>●製造原価報告書の作成方法</li> <li>●製造業と商品売買業の財務諸表の違い</li> </ul>	<p>204～218 ページ</p>	<p>5</p>

<p>第V編 標準原価計算 第1章 標準原価計算の目的と 手続</p> <p>1 標準原価計算の意義 2 標準原価計算の目的 3 標準原価計算の手続 4 原価標準の設定 5 標準原価の計算 6 実際原価の計算</p>	<p>(5) 標準原価計算 ア 標準原価計算の目的と手続</p>	<p>220～229 ページ</p>	<p>6</p>
<p>第V編 標準原価計算 第2章 原価差異の原因別分析</p> <p>1 原価差異の計算 2 原価差異の分析 3 標準原価計算の記帳方法 4 標準原価計算の財務諸表</p>	<p>(5) 標準原価計算 ア 標準原価計算の目的と手続 ●シングルプランとパーシャル プランによる記帳法 イ 原価差異の原因別分析</p>	<p>230～258 ページ</p>	<p>10</p>
<p>第VI編 直接原価計算 第1章 直接原価計算の目的と 財務諸表の作成</p> <p>1 直接原価計算の意義 2 直接原価計算の目的と方法 3 直接原価計算の手続 4 直接原価計算の財務諸表</p>	<p>(6) 直接原価計算 ア 直接原価計算の目的と 財務諸表の作成 ●直接原価計算の目的と方法 ●直接原価計算による財務諸表の 作成方法 ●全部原価計算による財務諸表との 違い</p>	<p>260～272 ページ</p>	<p>8</p>
<p>第VI編 直接原価計算 第2章 短期利益計画への活用</p> <p>1 短期利益計画に有用な情報 の提供 2 損益分岐分析（CVP分析）</p>	<p>(6) 直接原価計算 イ 短期利益計画への活用 ●原価、営業量、利益の関係を 分析する方法</p>	<p>273～278 ページ</p>	<p>5</p>
		<p>計</p>	<p>105</p>

# 編 修 趣 意 書

(発展的な学習内容の記述)

※受理番号	学校	教科	種 目	学年
107-119	高等学校	商業科	原価計算	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		

ページ	記 述	類型	関連する学習指導要領の内容や 内容の取扱いに示す事項	ページ数
279～ 280	安全余裕率 経営レバレッジ係数	1	第 15 節 管理会計 2 内 容 (2) 短期利益計画 イ 損益分岐分析と感度分析	1.5
280～ 282	原価の変動費と 固定費の分解	1	第 15 節 管理会計 2 内 容 (2) 短期利益計画 ア 原価予測の方法	2.25
合 計				3.75

## 常用漢字以外の使用漢字一覧表

銑	梯
(口絵⑤)	(p.295)

# 出 典 一 覧 表

申請図書			出 典					備 考
ページ	名 称	種別	名 称	ページ	著作者等	発 行 者	発行年次等	
1	第 I 編 原価と原価計算	写真	—	—	—	—	—	PIXTA より (旧版流用) 「お菓子工場の製造ライン」 素材番号 : 53025876
15	造船工場の内部	写真	—	—	—	—	—	PPS 画像検索システムより (旧版流用) 「MIRABELLA V THE LARGEST SINGLE MASTED YACHT IN THE WORLD, VOSPER SHIPYARD, SOUTHAMPTON, BRITAIN」 画像番号 : 437630a
15	製紙工場の内部	写真	—	—	—	—	—	PPS 画像検索システムより (旧版流用) 「Large rolls of toilet paper inside a mill」 画像番号 : A1FJ8A

申請図書			出典					備考
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	
15	製糖工場の内部	写真	—	—	—	—	—	PPS画像検索システムより（旧版流用） 「Sugar cane processing」 画像番号：c0071386
26	和菓子の販売員	写真	—	—	—	—	—	PPS画像検索システムより（旧版流用） 「和菓子屋（八ツ橋を売る店）/東山区/京都/日本/2010年11月」 画像番号：4101-022183
26	駅のラッシュアワー	写真	—	—	—	—	—	PPS画像検索システムより（旧版流用） 「ラッシュアワーの駅階段/JR 新宿駅/東京/2013年10月」 画像番号：4101-029294
33	第Ⅱ編 原価の費目別計算	写真	—	—	—	—	—	PIXTAより（旧版流用） 「杉の丸太とユンボ」 素材番号：45406336

申請図書			出典					備考
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	
34	タイヤを自動車に取り付ける様子 (アメリカ)	写真	—	—	—	—	—	PPS画像検索システムより(旧版流用) 「Lansing, Michigan - A worker uses a machine to lift a tire onto a car on the assembly line at a General Motors assembly plant The factory produces Buick, Saturn, and GMC vehicles Workers at the plant are members of the United Auto Workers union」 画像番号: X2J-948281

申請図書			出典					備考
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	
35	石炭と蒸気自動車 (イギリス)	写真	—	—	—	—	—	PPS画像検索システムより(旧版流用) 「石炭の山と蒸気機関/ グレートドーセットスチ ームフェア/ブランドフ ォードフォーラム/ドー セット/イングランド/英 国/2012年9月」 画像番号: 4101-026786
36	長崎税関本関	写真	—	—	—	—	—	PIXTAより(旧版流用) 「長崎税関」 素材番号: 10639104
36	木材をトラックに 積む様子	写真	—	—	—	—	—	PPS画像検索システムより(旧版流用) 「Loading logs onto a truck. Selective logging of top grade hard woods near Dubois, Jefferson County, Pennsylvania, USA」 画像番号: B607C2

申請図書			出典					備考
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	
38	木材の倉庫	写真	—	—	—	—	—	PIXTA より (旧版流用) 「木材の倉庫」 素材番号：38919835
39	黄銅丸棒 (おうどうまるぼう)	写真	—	—	—	—	—	PPS 画像検索システムより (旧版流用) 「Bundle of bright shiny industrial brass rods in a market tied together with product information slip in close up on the ends」 画像番号：2BTD626
59	工場のタイムカード (ドイツ)	写真	—	—	—	—	—	PPS 画像検索システムより (旧版流用) 「Timecard in the Hanhart watch factory in the Black Forest」 画像番号：CW36B1

申請図書			出典					備考
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	
72	ガスホルダー	写真	—	—	—	—	—	PPS画像検索システムより（旧版流用） 「東京ガス多摩整圧所/東京都多摩市/2014年10月」 画像番号：6126-000847
72	貯水池の取水塔 (しゅすいとう)	写真	—	—	—	—	—	PPS画像検索システムより（旧版流用） 「村山貯水池の第一取水塔（日本一美しい取水塔といわれている）/多摩湖/都立狭山自然公園/東大和市/東京都/2013年」 画像番号：6126-000042
73	世界知的所有権機関 (スイス)	写真	—	—	—	—	—	PPS画像検索システムより（旧版流用） 「WIPO headquarters, Geneva, Switzerland」 画像番号：B2H8R9

申請図書			出典					備考
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	
81	第Ⅲ編 原価の部門別計算と 製品別計算	写真	—	—	—	—	—	PIXTA より (旧版流用) 「Industrial steel welder in factory welder,」 素材番号 : 58897903
110	切削 (せっさく) 作業で生じた 作業くず	写真	—	—	—	—	—	PPS 画像検索システムより (旧版流用) 「wood chips produced by a saw chain」 画像番号 : B3E251
115	自動車工場の塗装部	写真	—	—	—	—	—	PPS 画像検索システムより (旧版流用) 「Robotic car production line」 画像番号 : c0225430

申請図書			出典					備考
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	
195	第IV編 内部会計	写真	—	—	—	—	—	PPS画像検索システムより（旧版流用） 「Small appliances including kettles and toasters on sale in Comet, Cwmbran, Wales, UK」 画像番号：CP9TGT
219	第V編 標準原価計算	写真	—	—	—	—	—	PPS画像検索システムより（旧版流用） 「Ford model T. Haines. Alaska. USA」 画像番号：CC58KK
259	第VI編 直接原価計算	写真	—	—	—	—	—	PIXTAより（旧版流用） 「ビジネスデータの分析。統計データの収集。多くのグラフが描かれたレポートと指し示す手。」 素材番号：41855956

申請図書			出典					備考
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	
全体	英語表記	英語 表記	『英文会計用語辞典』 (第4版第1刷)	全体	山田 昭広	山本 継	2017年 10月1日	英語表記を本書に統一

(備考) 1 「申請図書」の欄については次のとおりとする。

- ① 「ページ」の欄には、引用又は新たに作成した教材や資料等の申請図書における掲載ページを示す。
- ② 「名称」の欄には、引用した教材や資料等の申請図書における名称を示す。
- ③ 「種別」の欄には、国語教材、楽譜、写真、図、挿絵、表、グラフ、地図などの別を示す。

2 「出典」の欄については次のとおりとする。

- ① 出典が一般図書の場合は、当該図書の名称（版次を含む。）、掲載ページ、著作者・編集者等、発行者及び発行年次を各欄に示す。
- ② 出典が定期刊行物の場合は、発行年次等欄に巻号、発行月日等を示す。
- ③ 出典が図書でない場合には、備考欄に資料提供者や保有者の氏名又は名称、及び当該資料に付された整理番号等を示すなど、出典を確認することが可能な情報を記入する。

3 出典を基に申請図書の発行者が改変を行った場合又は新たに作成を行った場合は、「備考」欄にその旨を示す。

4 (1) 写真等については、肖像権等の権利処理を必要に応じて行うこと。

- (2) 著作物の掲載に当たっては、著作権法第33条に基づき、掲載する旨を著作者に通知するとともに、補償金を著作権者に支払う必要があることに留意すること（別途契約を締結する場合を除く）。

備考4の内容について確認しました。



## ウェブサイトのアドレスの掲載箇所一覧表

申請図書			学習上の参考に供する情報			備考
番号	ページ	種別	参照先	URL	概要	
1	前付④	二次元コード およびURL	東京法令出版株式会社	自社ページURL	諸勘定の振替関係の解説動画を掲載	別紙1添付
			東京法令出版株式会社	自社ページURL	予定価格を用いる場合の解説動画を掲載	別紙2添付
			東京法令出版株式会社	自社ページURL	予定賃率を用いる場合の解説動画を掲載	別紙3添付
			東京法令出版株式会社	自社ページURL	製造間接費の予定配賦の解説動画を掲載	別紙4添付
			東京法令出版株式会社	自社ページURL	変動予算による差異分析の解説動画を掲載	別紙5添付
			東京法令出版株式会社	自社ページURL	固定予算による差異分析の解説動画を掲載	別紙6添付
			東京法令出版株式会社	自社ページURL	部門別計算の手の解説動画を掲載	別紙7添付
			東京法令出版株式会社	自社ページURL	製造部門費の予定配賦の解説動画を掲載	別紙8添付
			東京法令出版株式会社	自社ページURL	総合原価計算の種類解説動画を掲載	別紙9添付
			東京法令出版株式会社	自社ページURL	月末仕掛品原価の計算(素材費と加工費の計算)の解説動画を掲載	別紙10添付
			東京法令出版株式会社	自社ページURL	月末仕掛品原価の計算(平均法)の解説動画を掲載	別紙11添付
			東京法令出版株式会社	自社ページURL	月末仕掛品原価の計算(先入先出法)の解説動画を掲載	別紙12添付
			東京法令出版株式会社	自社ページURL	総合原価計算における減損の解説動画を掲載	別紙13添付
			東京法令出版株式会社	自社ページURL	総合原価計算における仕損の解説動画を掲載	別紙14添付
			東京法令出版株式会社	自社ページURL	直接材料費差異の分析の解説動画を掲載	別紙15添付
			東京法令出版株式会社	自社ページURL	直接労務費差異の分析の解説動画を掲載	別紙16添付
			東京法令出版株式会社	自社ページURL	製造間接費差異の分析(変動予算)の解説動画を掲載	別紙17添付
			東京法令出版株式会社	自社ページURL	製造間接費差異の分析(固定予算)の解説動画を掲載	別紙18添付
			東京法令出版株式会社	自社ページURL	固定費調整の解説動画を掲載	別紙19添付
			東京法令出版株式会社	自社ページURL	損益分岐分析(CVP分析)の方法の解説動画を掲載	別紙20添付
			東京法令出版株式会社	自社ページURL	総合問題(問題)を掲載	別紙21添付
			東京法令出版株式会社	自社ページURL	総合問題(解答解説)を掲載	別紙22添付

目次

- ④ 第Ⅰ編 原価と原価計算
- ④ 第Ⅱ編 原価の費目別計算
- ④ 第Ⅲ編 原価の部門別計算と製品別計算
- ④ 第Ⅴ編 標準原価計算
- ④ 第Ⅵ編 直接原価計算
- ④ 総合問題

コンテンツ一覧

※ ④の動画は外部サイトへジャンプします。

第Ⅰ編 原価と原価計算

p.27 諸勘定の振替関係



第Ⅱ編 原価の費目別計算

p.48 予定価格を用いる場合



p.64 予定賃率を用いる場合



第Ⅲ編 原価の部門別計算と製品別計算

p.93 製造間接費の予定配賦



p.98 変動予算による差異分析



p.101 固定予算による差異分析



p.116 部門別計算の手続



p.126 製造部門費の予定配賦



p.135 総合原価計算の種類



p.139 月末仕掛品原価の計算（素材費と加工費の計算）



p.141 月末仕掛品原価の計算（平均法）



p.143 月末仕掛品原価の計算（先入先出法）



p.175 総合原価計算における減損



p.182 総合原価計算における仕損



第Ⅴ編 標準原価計算

p.232 直接材料費差異の分析



p.234 直接労務費差異の分析



p.236 製造間接費差異の分析（変動予算）



p.238 製造間接費差異の分析（固定予算）



第Ⅵ編 直接原価計算

p.268 固定費調整



p.274 損益分岐分析（CVP分析）の方法



総合問題

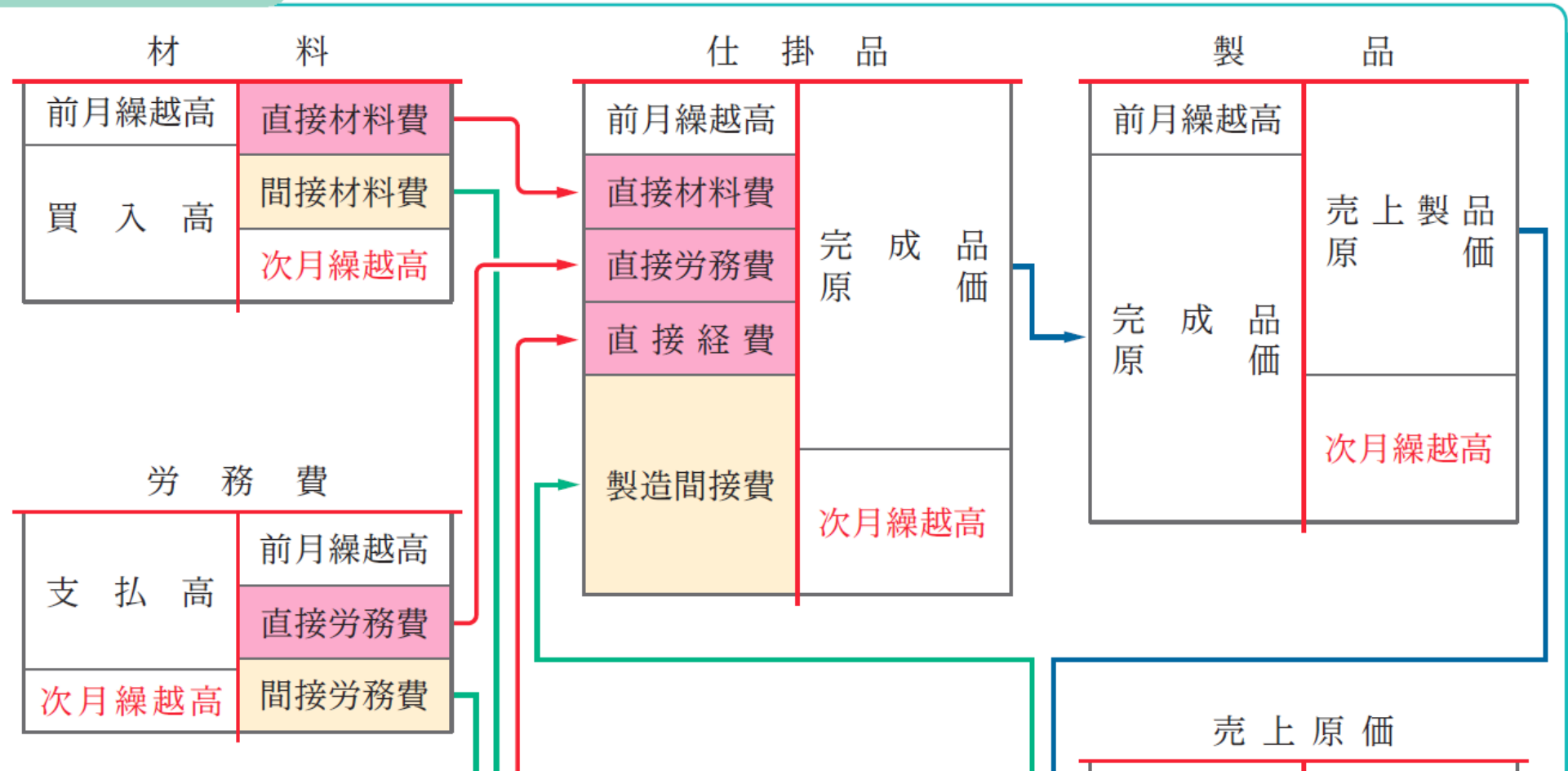
総合問題（問題）



総合問題（解答解説）



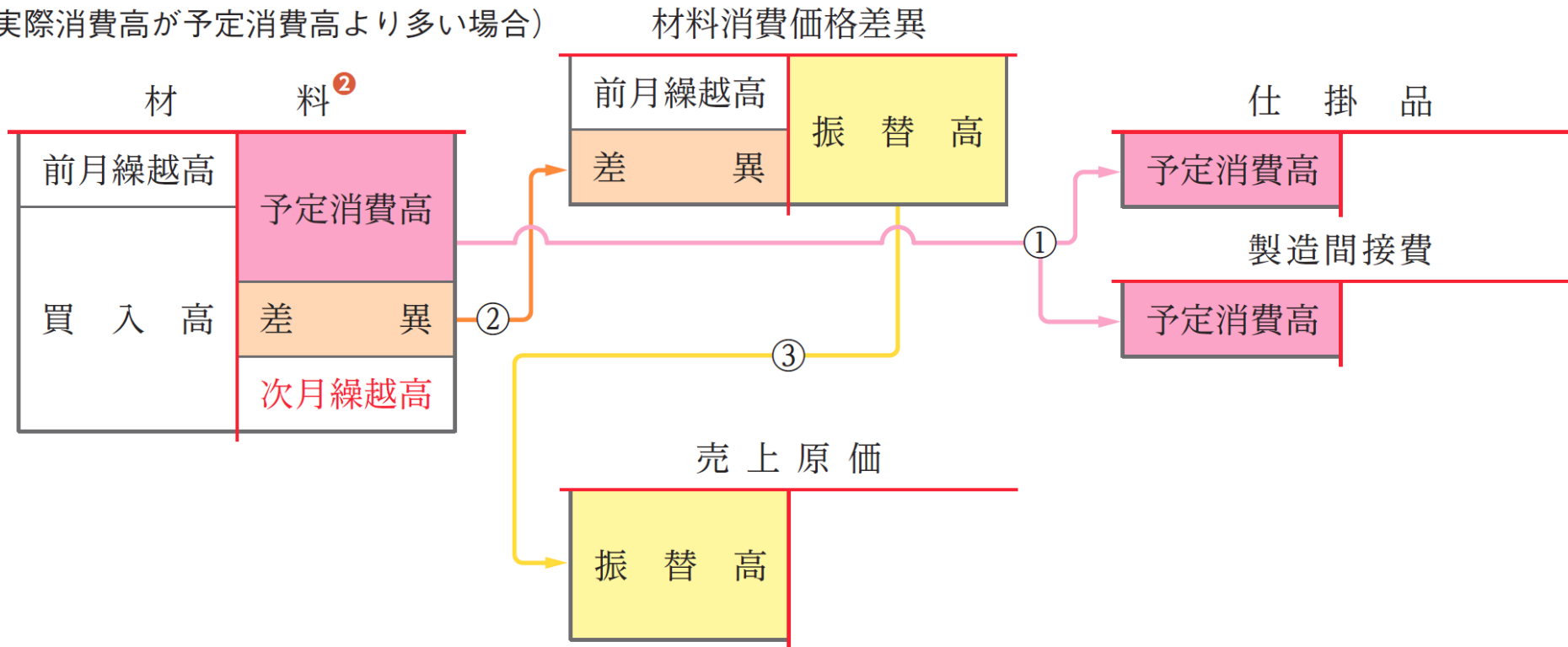
諸勘定の振替関係



解説その 1 : 諸勘定の振替関係

## 予定価格を用いる場合

(実際消費高が予定消費高より多い場合)

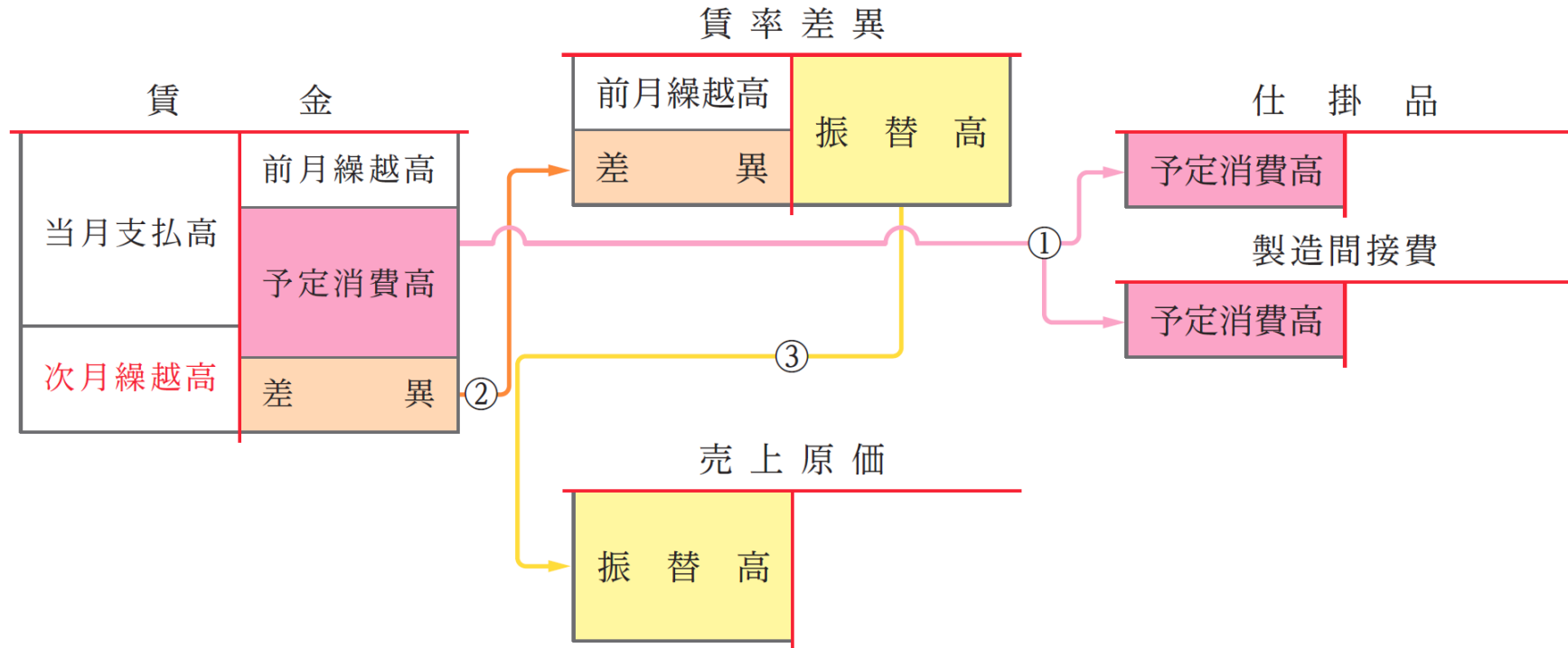


③の材料消費価格差異勘定から売上原価勘定への振替は会計期末におこなう。

# 解説その2：予定価格を用いる場合

### 予定賃率を用いる場合

(実際消費高が予定消費高より多い場合)



③の賃率差異勘定から売上原価勘定への振替は会計期末におこなう。

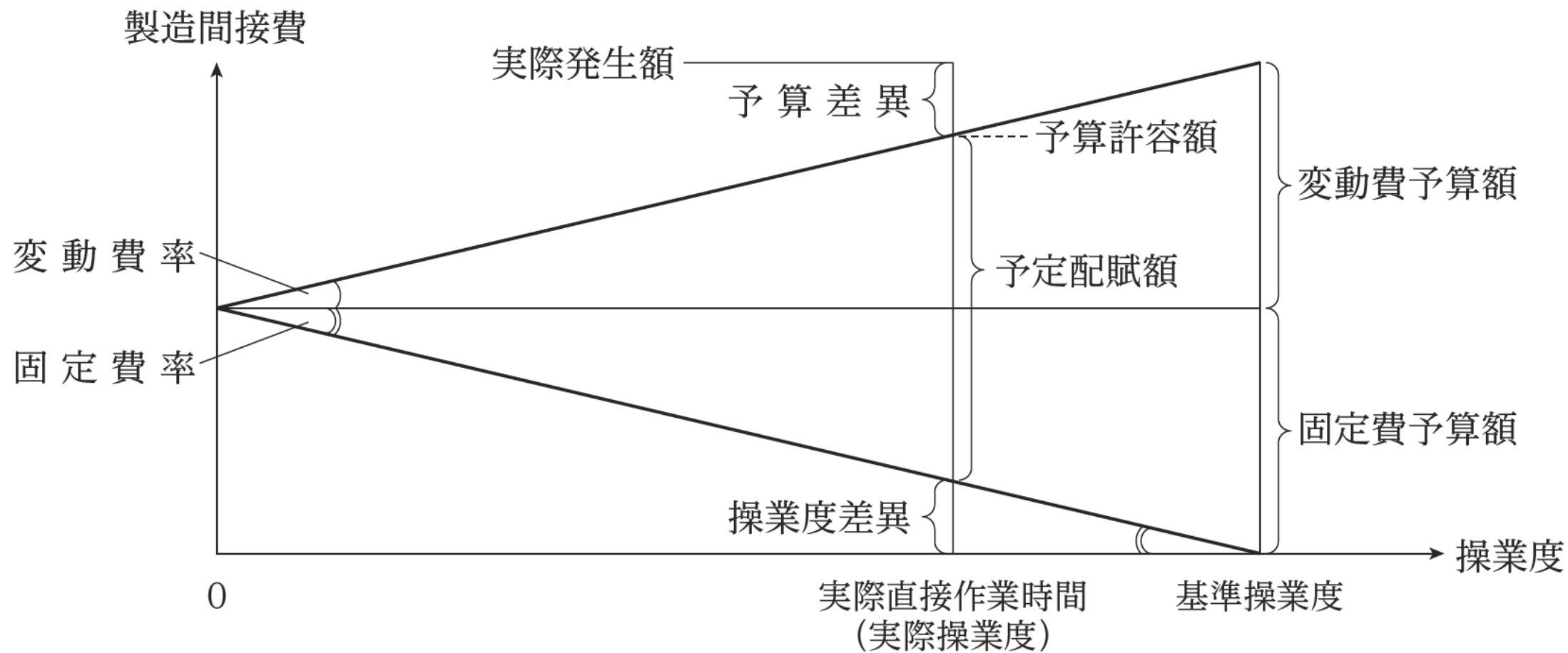
## 解説その3：予定賃率を用いる場合

## 製造間接費予定配賦表

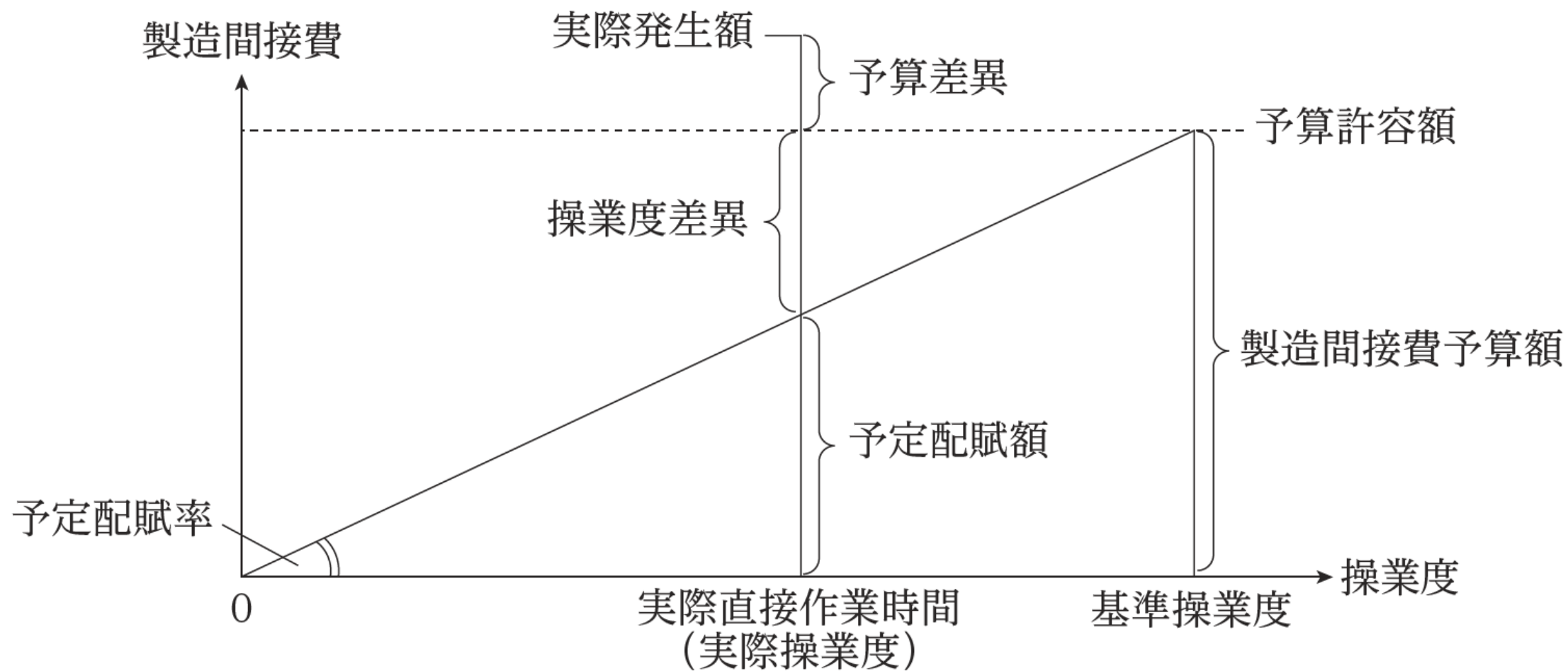
令和○年10月分

令和 ○年		指図書番号	予定配賦率	配賦基準 (直接作業時間)	予定配賦額	備 考
10	10	#11	720	700	504,000	
		#12	720	450	324,000	
				720	1,950	1,404,000

解説その4：製造間接費の予定配賦



## 解説その5：変動予算による差異分析



## 解説その6：固定予算による差異分析

## 部門別計算の手続

- ① 製造間接費を部門個別費と部門共通費に分ける。
- ② 部門個別費は各部門に賦課し，部門共通費は各部門に配賦する  
(部門費配分表<sup>①</sup>に記入)。
- ③ 補助部門費を各製造部門に配賦する (部門費振替表<sup>②</sup>に記入)。
- ④ 製造部門費を各製品に配賦する。

解説その 7 : 部門別計算の手続

### 製造部門費予定配賦表

令和○年10月分

令和 ○年		指図書 番号	第 1 製 造 部 門			第 2 製 造 部 門		
			予 定 配賦率	配賦基準 (直接作業時間)	予 定 配 賦 額	予 定 配賦率	配賦基準 (直接作業時間)	予 定 配 賦 額
10	10	#11	250	600	150,000	300	300	90,000
		#12	250	400	100,000	300	200	60,000
			250	6,000	1,500,000	300	4,000	1,200,000

解説その 8 : 製造部門費の予定配賦

## 単純総合原価計算

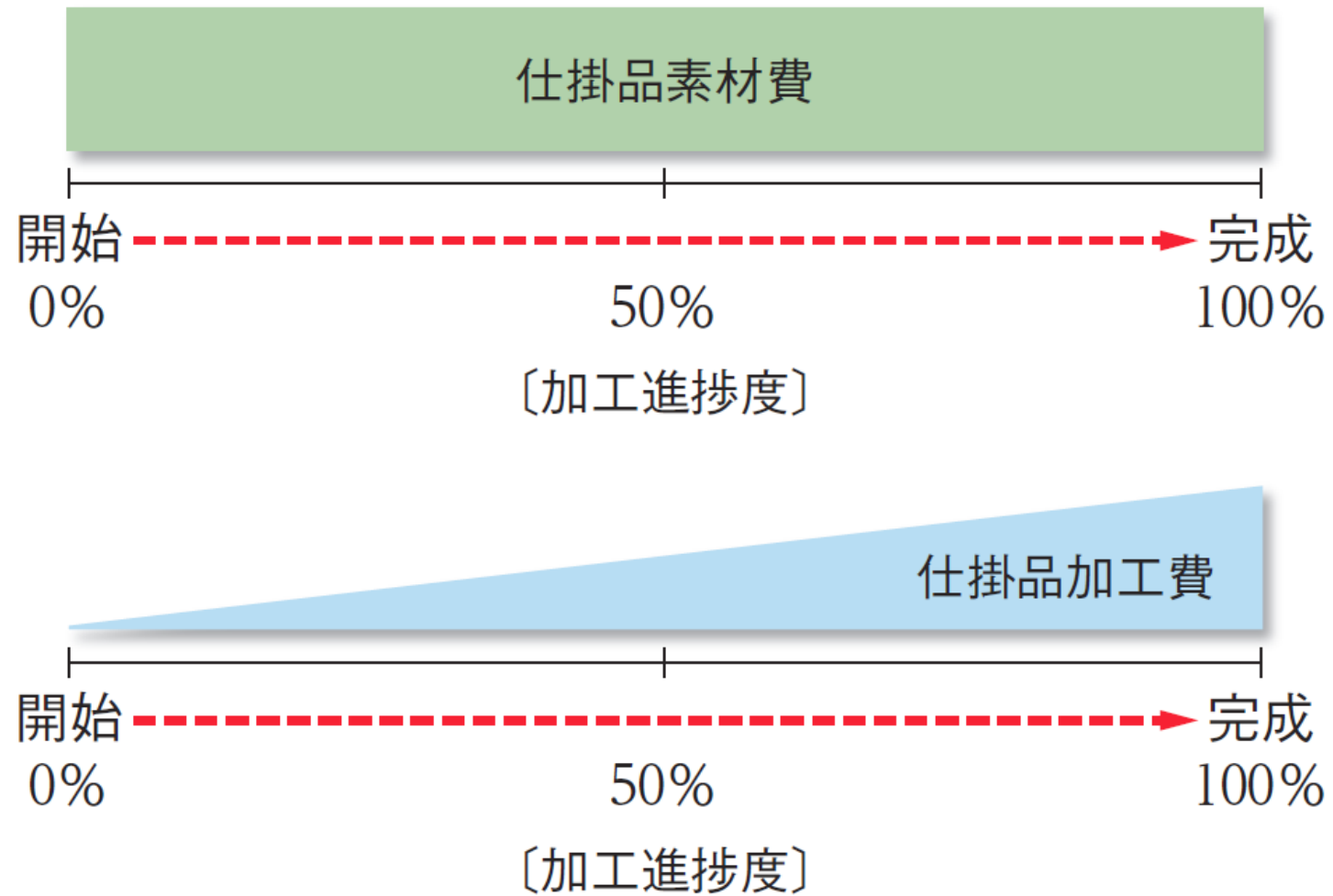


同種製品  
の製造

同じ種類の製品を連続して生産する製造業  
に適用される。

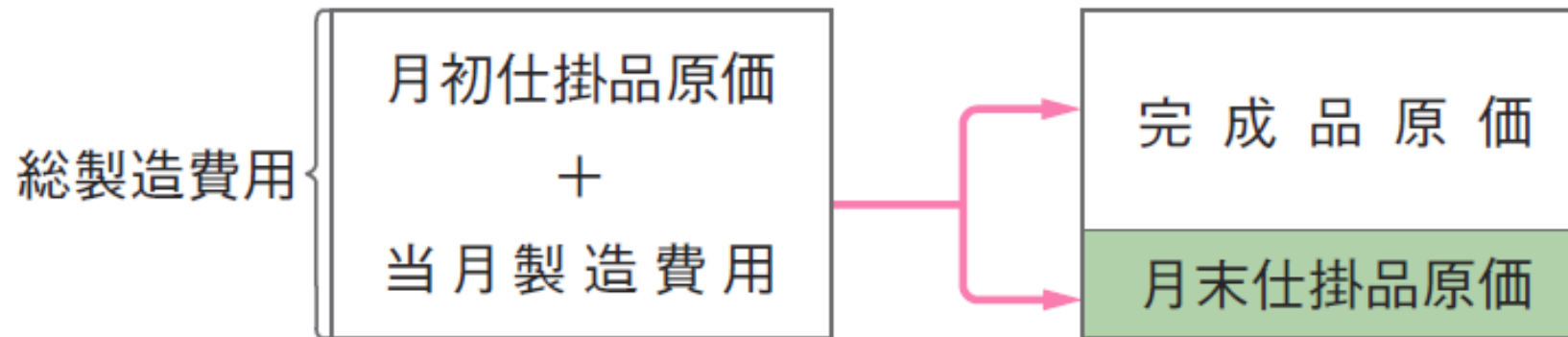


解説その9：総合原価計算の種類



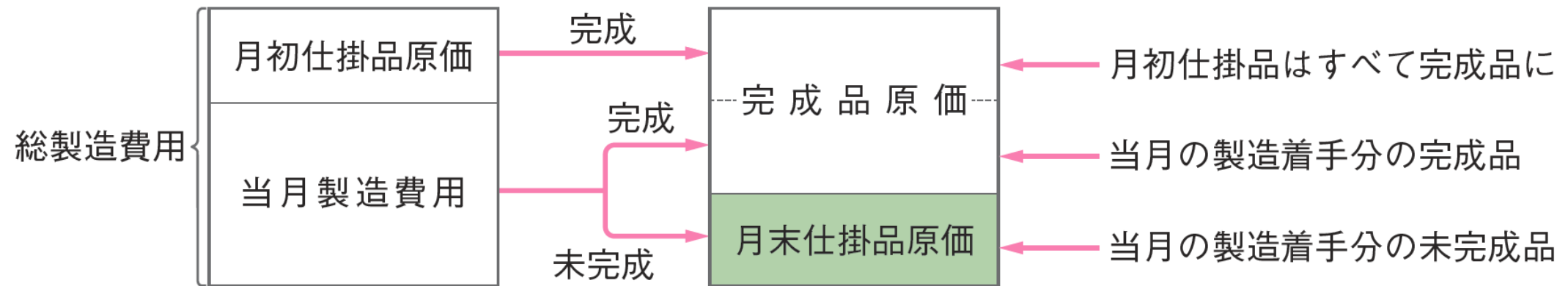
解説その10：月末仕掛品原価の計算  
(素材費と加工費の計算)

## 平均法による原価の配分

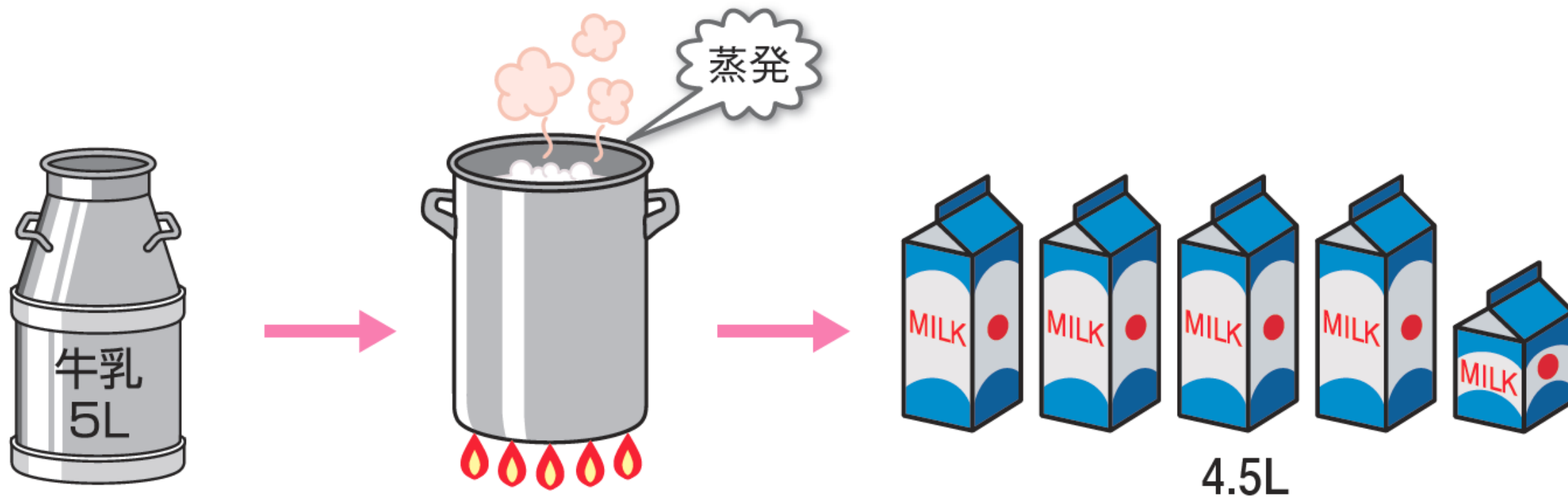


解説その11：月末仕掛品原価の計算（平均法）

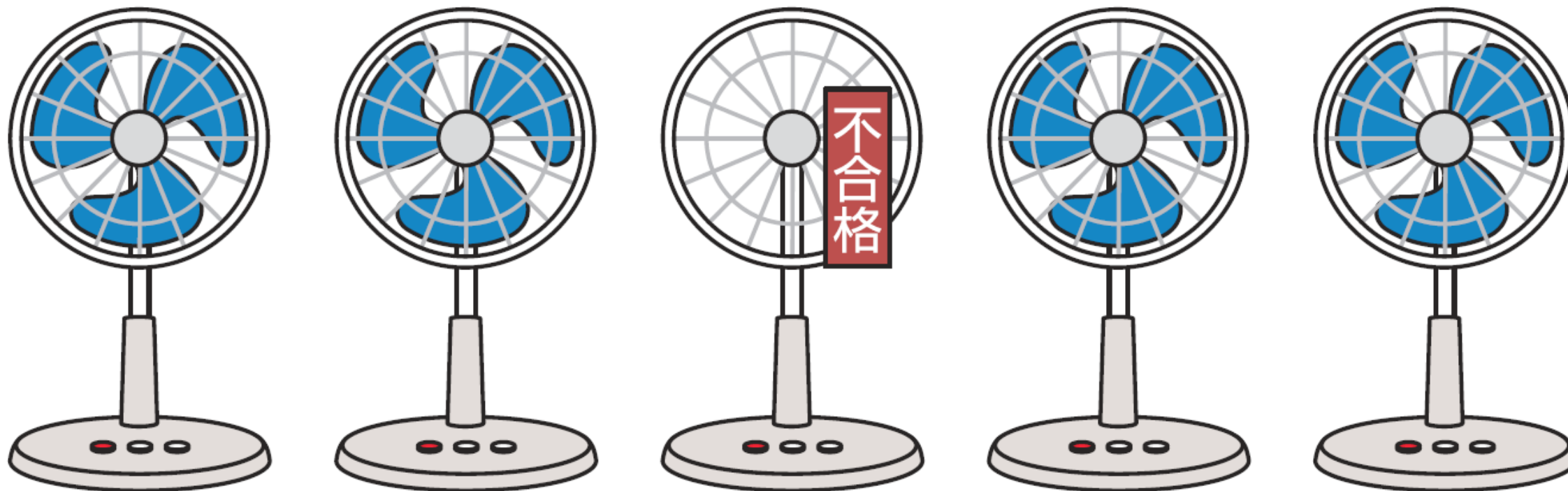
## 先入先出法による原価の配分



解説その12：月末仕掛品原価の計算（先入先出法）

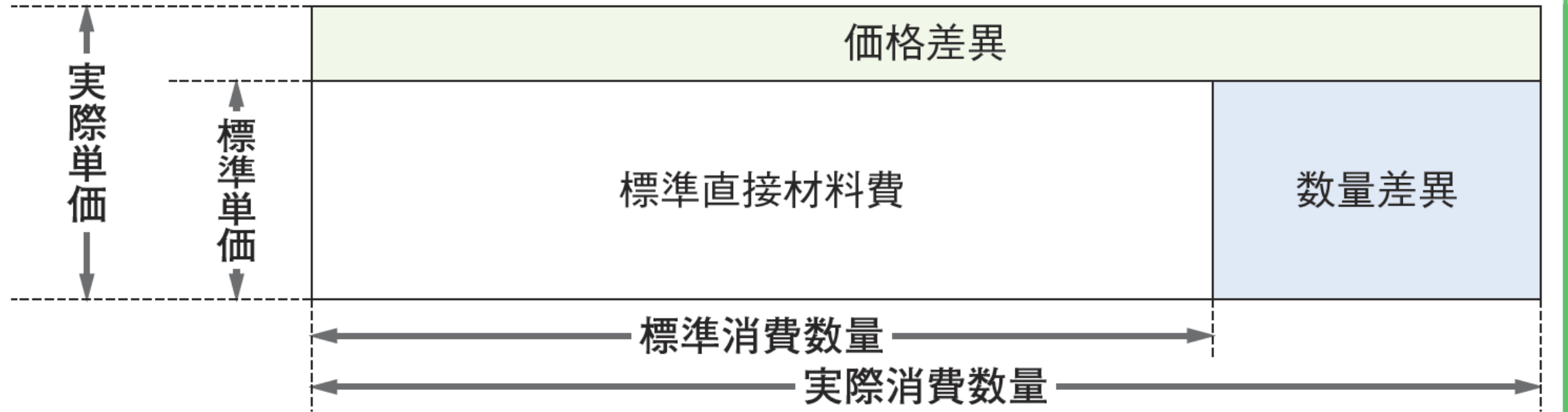


解説その13：総合原価計算における減損



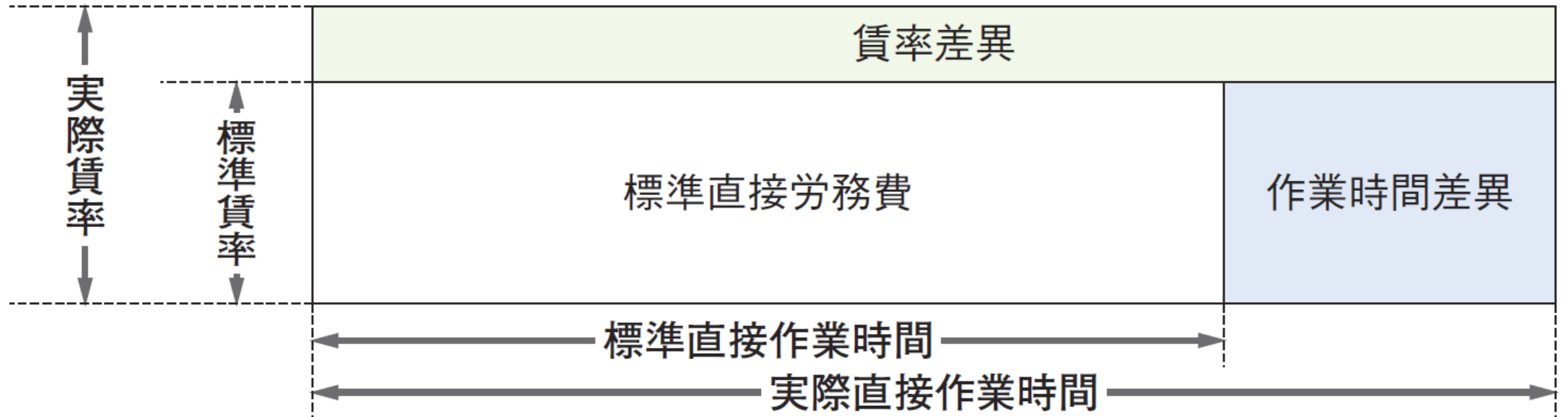
解説その14：総合原価計算における仕損

## 価格差異と数量差異



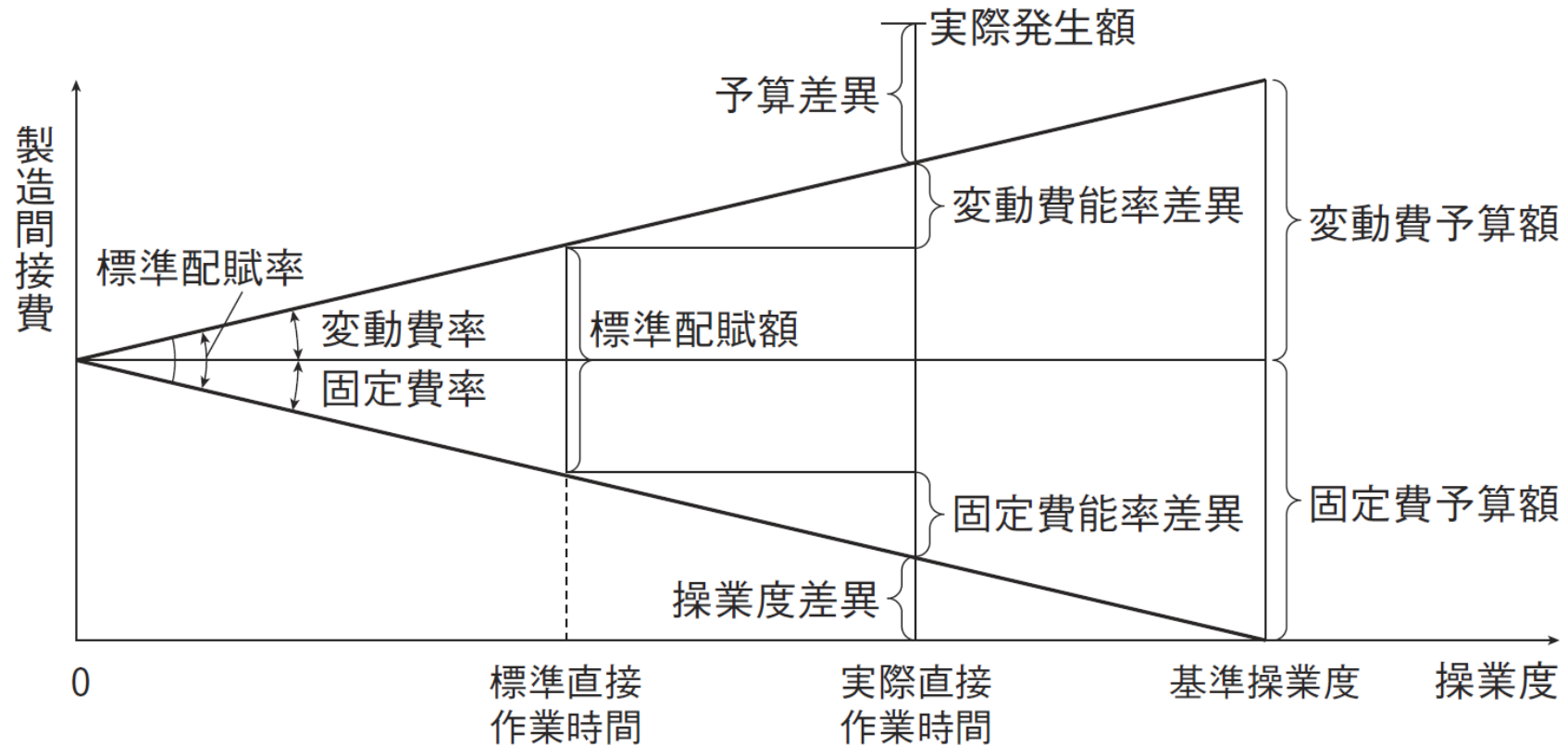
解説その15：直接材料費差異の分析

## 賃率差異と作業時間差異



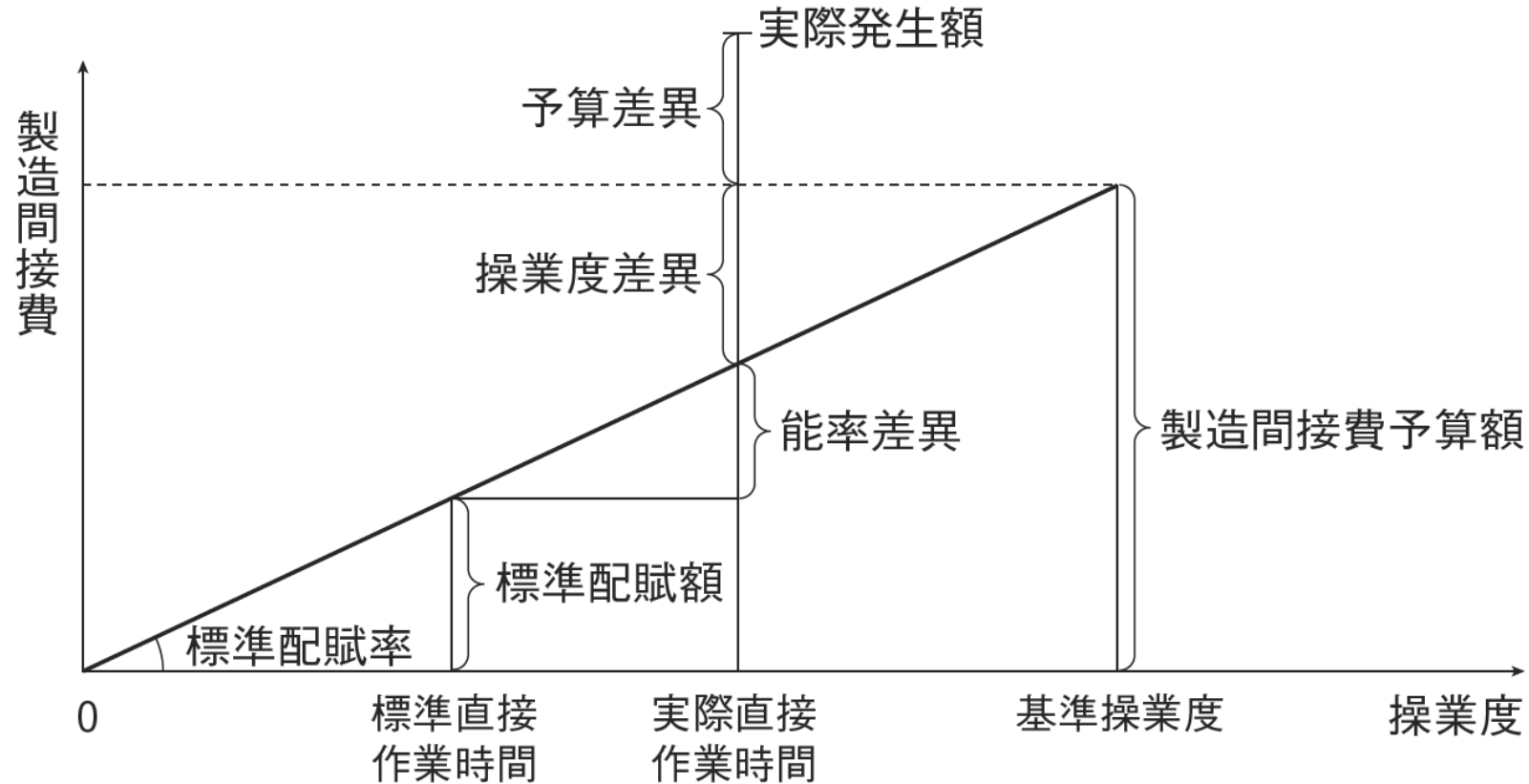
解説その16：直接労務費差異の分析

## 製造間接費差異の分析図 (公式法変動予算・4分法)



解説その17：製造間接費差異の分析（変動予算）

## 製造間接費差異の分析図(固定予算)



解説その18：製造間接費差異の分析（固定予算）

直接原価計算による  
損益計算書

費用総額 1,044,000	売上高 1,500,000
営業利益 456,000	

全部原価計算による  
製品勘定

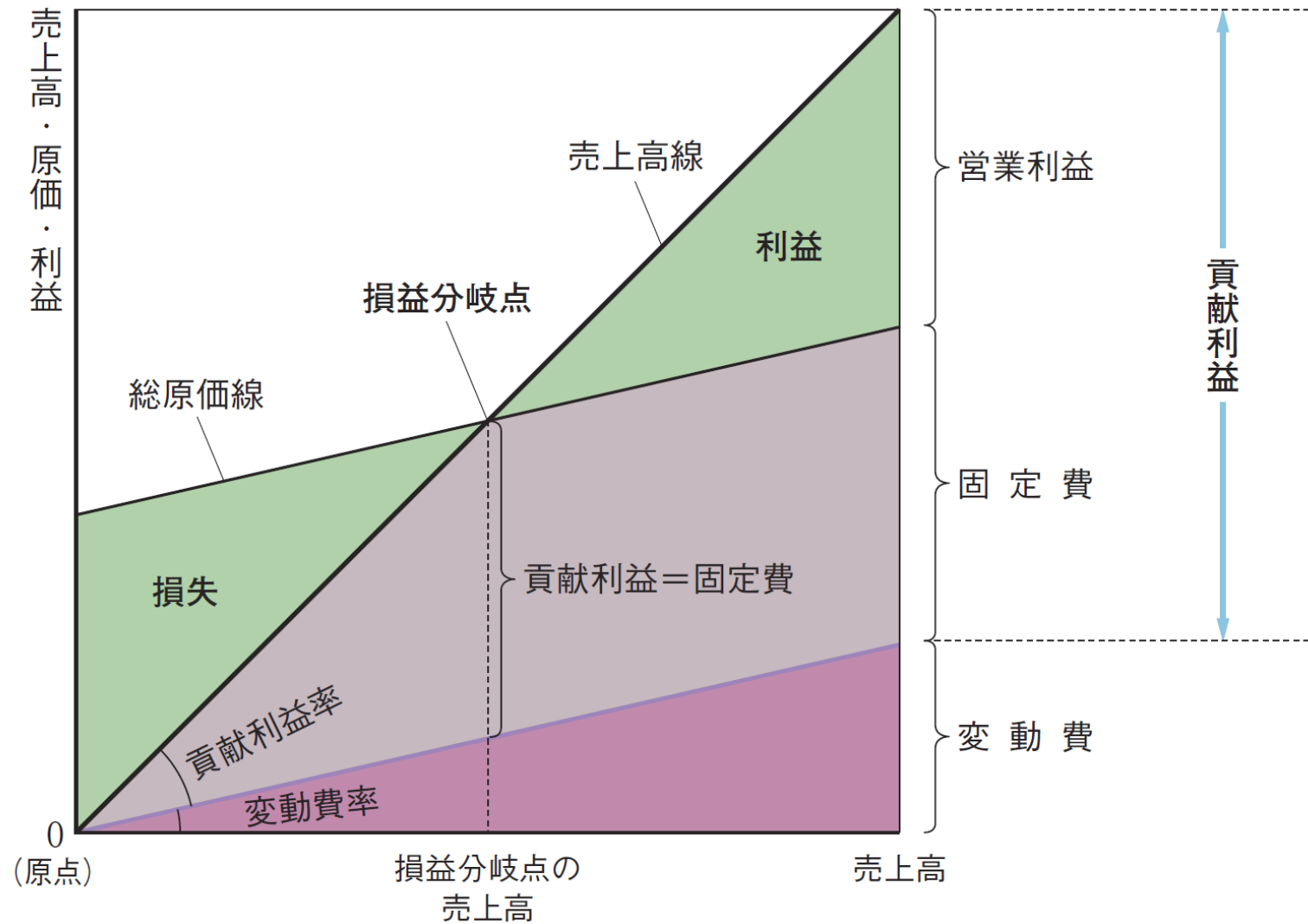
200個 変 80,000 固 69,000	200個 変 80,000 固 69,000
900個 変 360,000 固 414,000	800個 変 320,000 固 368,000
	100個 変 40,000 固 46,000

全部原価計算による  
損益計算書

費用総額 1,067,000	売上高 1,500,000
営業利益 433,000	

$$¥456,000 + ¥46,000 - ¥69,000 = ¥433,000$$

## 解説その19：固定費調整



## 解説その20：損益分岐分析（CVP分析）の方法



## 総合問題

1

個別原価計算を採用している京都製作所の下記の資料によって、次の各問いに答えなさい。

- (1) 1月31日①と⑧の取引の仕訳を示しなさい。
- (2) 素材勘定・製造間接費勘定・第2製造部門費勘定に必要な記入をおこない、締め切りなさい。なお、勘定記入は日付・相手科目・金額を示すこと。
- (3) A製品（製造指図書#1）とB製品（製造指図書#2）の原価計算表を作成しなさい。

ただし、i 前月繰越高は、次のとおりである。

素 材	800 個	@ ¥ 1,200	¥	960,000
工場消耗品	250 //	// // 220	//	55,000
仕 掛 品（製造指図書#1）			//	1,832,000

原価計算表に記入済み

直接材料費欄 ¥995,000

## ▶ 解答 総合問題1

(1)取引の仕訳

1月31日①	(借) 製造間接費	165,000	(貸) 工場消耗品	165,000
31日⑧	(借) 貸率差異	15,000	(貸) 貸金	15,000

(2)素材勘定・製造間接費勘定・第2製造部門費勘定の記入

	素	材	
1/1 前月繰越	960,000	1/13 仕掛品	2,472,000
8 買掛金	2,016,000	31 次月繰越	504,000
	2,976,000		2,976,000

	製	造	
間 接 費			
1/31 工場消耗品	165,000	1/31 諸口	848,000
〃 貸金	92,000		
〃 健康保険料	112,000		
〃 諸口	479,000		
	848,000		848,000

	第	2	
製 造 部 門 費			
1/31 製造間接費	210,000	1/31 仕掛品	300,000
〃 諸口	104,000	〃 製造部門費配賦差異	14,000